

令和3年度奥州市病院事業報告書

1 概況

(1) 総括事項

ア 病院事業全体としての状況

令和3年度の病院事業は、急性期医療から慢性期医療、在宅医療を提供し、各地域の医療ニーズに応えるべく医療機能の充実に努めてまいりました。収束の兆しが見えない新型コロナウイルス感染症に対しては、感染症病床を有する総合水沢病院を中心に患者への治療はもとより、検査及びワクチン接種体制の整備を図り、医療局全体でその対応に当たりました。

医師数については、総合水沢病院において常勤医師が1人減となりましたが、会計年度任用職員医師が1人増え、加えて衣川診療所へ常勤医師1人の着任により、全体で前年度から1人増の26人となりました。しかし、内科や整形外科等の専門医は依然として不足しており、医師招へいや医師奨学生の義務履行等の医師確保に力を注ぎ、医療提供体制の強化を図ると共に経営の健全・安定化を進める必要があります。

また、地域医療構想及び奥州金ケ崎地域医療介護計画で示された市立医療機関のあり方に基づき、再編統合案による新市立病院建設を含む次期奥州市立病院・診療所改革プランの策定に向けて検討してまいりましたが、住民からの請願や説明会での声などから、このまま再編統合案を含む改革プランの策定を進めることが難しいと判断し計画を見直すこととしました。市民が安心して生活していくために必要な医療提供体制を構築することができるよう、早急に市立医療機関の方向性を示すべく、検討を進めていきます。

経営状況については、入院患者数は30,799人（前年度比1,141人減）、外来患者数（訪問看護を除く。）は113,768人（前年度比1,045人増）となっており、一日当たりの平均患者数は入院で84.4人（前年度87.5人）、外来472.1人（前年度467.7人）となりました。一般病床利用率は39.8%で、前年度の41.3%から1.5ポイントの減となっています。

収益的収入及び支出（税抜）については、医業収益が2,541,028,129円、医業外収益が2,407,190,196円、訪問看護事業収益が65,560,830円、訪問看護事業外収益が13,131円、このほか特別利益が190,961円で、病院事業収益総計は5,013,983,247円となりました。

収益的収入のうち医業外収益は、重点医療機関の指定を受けている総合水沢病院へ新型コロナウイルス感染症入院施設等確保事業費補助金が988,462,000円交付されたほか、各施設へ新型コロナウイルス感染症対応関連補助金が交付されたことにより前年度に比し928,175,173円の増となりました。

支出については、医業費用が4,108,975,930円、医業外費用については147,314,653円、訪問看護事業費用が77,041,487円、このほか特別損失が12,480,763円で、病院事業費用総額は4,345,812,833円となりました。

この結果、医業収支で1,567,947,801円の損失、経常収支で680,460,216円の利益とな

り、特別損益を含めた病院事業収支における純損益は 668, 170, 414 円の利益となりました。

また、資本的収入及び支出(税込)については、収入は 157, 132, 000 円、支出は 229, 850, 140 円となり、収入が支出に対して不足する額は過年度分損益勘定留保資金で補てんしました。

イ 医療機関ごとの状況

(ア) 総合水沢病院

医師数は前年度と比較し、常勤医師が 1 人減の 10 人となりました。会計年度任用職員医師 3 人を合わせると合計で 13 人となり、全体で前年度と同数となっています。入院患者数は 17, 454 人で前年度と比較して 1, 569 人 (8.2%) の減となり、外来患者数(訪問看護を除く。)は 51, 946 人で前年度と比較して 5, 671 人 (12.3%) の増となりました。訪問看護は、利用者数が 6, 555 人となっています。

収益的収入(税抜)については、医業収益が 1, 516, 036, 511 円、医業外収益が 1, 798, 098, 397 円、訪問看護事業収益が 57, 495, 969 円、訪問看護事業外収益が 2, 600 円で、収益総額は 3, 371, 633, 477 円となりました。

収益的支出(税抜)においては、医業費用が 2, 454, 823, 290 円、医業外費用が 79, 428, 721 円、訪問看護事業費用が 62, 871, 868 円、このほか特別損失が 1, 351, 660 円で、支出総額は 2, 598, 475, 539 円となりました。

この結果、医業収支では 938, 786, 779 円の損失、経常収支では 774, 509, 598 円の利益となり、特別損益を含めた純損益では 773, 157, 938 円の純利益となりました。

(イ) まごころ病院

医師数は前年度と同数の常勤医師 8 人となっています。入院患者数は 11, 662 人で前年度と比較して 324 人 (2.9%) の増となり、外来患者数(訪問看護を除く。)は 40, 141 人で前年度と比較して 3, 357 人 (7.7%) の減となりました。訪問看護は、利用者数が 1, 311 人となっています。

収益的収入(税抜)については、医業収益が 738, 100, 486 円、医業外収益が 248, 255, 380 円、訪問看護事業収益が 8, 064, 861 円、訪問看護事業外収益が 10, 531 円、このほか特別利益が 52, 651 円で、収益総額は 994, 483, 909 円となりました。

収益的支出(税抜)においては、医業費用が 1, 020, 649, 227 円、医業外費用が 38, 426, 509 円、訪問看護事業費用が 14, 169, 619 円、このほか特別損失が 10, 518, 021 円で、支出総額は 1, 083, 763, 376 円となりました。

この結果、医業収支では 282, 548, 741 円の損失、経常収支では 78, 814, 097 円の損失となり、特別損益を含めた純損益では 89, 279, 467 円の純損失となりました。

(ウ) 前沢診療所

医師数は前年度と同数の常勤医師 1 人となっています。外来診療再開から 6 年目を迎え、

外来患者数（訪問看護は令和3年3月31日をもって休止）は7,304人で前年度と比較して200人（2.8%）の増となりました。なお、入院については引き続き休止しています。

収益的収入（税抜）については、医業収益が72,616,950円、医業外収益が128,924,717円、このほか特別利益が131,542円で、収益総額は201,673,209円となりました。

収益的支出（税抜）においては、医業費用が183,266,131円、医業外費用が14,256,679円、このほか特別損失が300,266円で、支出総額は197,823,076円となりました。

この結果、医業収支では110,649,181円の損失、経常収支では4,018,857円の利益となり、特別損益を含めた純損益では3,850,133円の純利益となりました。

(エ) 衣川診療所

医師数は前年度と比較し、常勤医師が1人増の2人となりました。会計年度任用職員医師1人を合わせると合計で3人となり、全体で1人増となっています。入院患者数は1,683人で前年度と比較して104人（6.6%）の増となり、外来患者数は9,393人で前年度と比較して1,083人（10.3%）の減となりました。

収益的収入（税抜）については、医業収益が157,720,935円、医業外収益が144,230,215円で、収益総額は301,951,150円となりました。

収益的支出（税抜）においては、医業費用が305,772,827円、医業外費用が11,109,338円、このほか特別損失が278,633円で、支出総額は317,160,798円となりました。

この結果、医業収支では148,051,892円の損失、経常収支では14,931,015円の損失となり、特別損益を含めた純損益では15,209,648円の純損失となりました。

(オ) 衣川歯科診療所

医師数は前年度と同数の常勤医師1人となっています。外来患者数は4,984人で前年度と比較して386人（7.2%）の減となりました。

収益的収入（税抜）については、医業収益が53,239,565円、医業外収益が30,436,572円、このほか特別利益が3,618円で、収益総額は83,679,755円となりました。

収益的支出（税抜）においては、医業費用が85,731,523円、医業外費用が2,264,591円、このほか特別損失が32,183円で、支出総額は88,028,297円となりました。

この結果、医業収支では32,491,958円の損失、経常収支では4,319,977円の損失となり、純損益では4,348,542円の純損失となりました。

(2) 経営指標に関する事項

令和3年度決算における経営成績について、経営の健全性を示す経常収支比率は、新型コロナウイルス感染症対応補助金交付額の増加、給与費及び材料費の減少などにより前年度比25.2ポイント増の115.7%となり、医療局発足時の平成27年度以来、6年ぶりに健全経営の水準とされる100%を上回りました。また、医業活動から生じる医業費用に対する医業収益の

割合を示す修正医業収支比率は前年度比 2.5 ポイント増の 56.9%となりましたが、100%を大きく下回り医業活動においては赤字となりました。

病院の施設が有効に活用されているかを示す病床利用率は前年度比 1.5 ポイント減の 39.8%となりました。医師不足による病床の休床や新型コロナウイルス感染症患者の病床確保のため空床としている病床数があることも影響していますが、病床利用率は下降傾向にあるため、適切な病床数を維持しながら利用率向上に向け引き続き医師確保に努めてまいります。

<経営指標の推移>

ア 経常収支比率【(経常収益/経常費用) ×100】

	R 3	R 2	R 1	H30	H29
総合水沢病院	129.8%	88.3%	88.3%	96.2%	102.3%
まごころ病院	92.7%	91.7%	93.6%	93.5%	84.1%
前沢診療所	102.0%	94.2%	103.5%	101.7%	100.0%
衣川診療所	95.3%	97.3%	94.3%	100.1%	98.9%
衣川歯科診療所	95.1%	102.5%	99.6%	108.3%	103.7%
医療局全体	115.7%	90.5%	91.0%	96.4%	98.0%

イ 修正医業収支比率【(医業収益－他会計負担金) / (医業費用) ×100】

	R 3	R 2	R 1	H30	H29
総合水沢病院	56.3%	52.1%	62.9%	72.3%	76.9%
まごころ病院	68.8%	68.8%	72.6%	73.7%	65.4%
前沢診療所	33.4%	30.4%	29.2%	27.1%	23.4%
衣川診療所	47.8%	48.4%	50.4%	55.6%	57.1%
衣川歯科診療所	49.5%	51.7%	52.2%	55.8%	53.4%
医療局全体	56.9%	54.4%	61.8%	68.1%	70.6%

ウ 病床利用率【(年延入院患者数/年延病床数) ×100】

	R 3	R 2	R 1	H30	H29
総合水沢病院	33.0%	35.9%	50.5%	69.8%	85.2%
まごころ病院	66.6%	64.7%	71.0%	80.4%	67.3%
前沢診療所	(休床)	(休床)	(休床)	(休床)	(休床)
衣川診療所	24.3%	22.8%	27.3%	31.0%	24.1%
衣川歯科診療所	—	—	—	—	—
医療局全体	39.8%	41.3%	53.0%	68.7%	75.6%

※病床利用率は感染症病床を除く一般病床利用率を示す。